

第四十九回 帝國議會 貴族院議事速記録第七號

大正十三年七月十日(木曜日)

午前十時八分開議

議事日程 第七號 大正十三年七月十日

午前十時開議

- 第一 大正十三年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)審查
期限ヲ定ムルノ件
- 第二 大正十三年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)審查
期限ヲ定ムルノ件
- 第三 大正十三年度特別會計歳入歳出總豫算追加案(特
第一號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第四 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル
件(追第一號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第五 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル
件(追第二號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第六 大正十三年度歳入歳出總豫算追加案(第三號)審查
期限ヲ定ムルノ件
- 第七 大正十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特
第二號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第八 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル
件(追第三號)審查期限ヲ定ムルノ件
- 第九 震災被害地ノ地租免除等ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十 震災ニ因リ地租ヲ免除セラルル者ノ法令上ノ納稅
資格要件ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十一 砂防法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十二 震災善後公債法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十三 小作調停法案(政府提出)
第一讀會

第十四 大正十三年勅令第四十六號(承諾ヲ求ムル件)
(衆議院送付)

會 議

第十五 大正十三年勅令第二十一號(承諾ヲ求ムル件)
(衆議院送付)

會 議

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

(長書記官朗讀)

昨九日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ送付セリ
藥品營業並藥品取扱規則第四十六條第一項ノ適用ニ關スル法律案
同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨
ヲ衆議院ニ通知セリ

國債整理基金特別會計法中改正法律案
外國船舶ノ所得稅免除ニ關スル法律案

大正十年度乃至大正十二年度ノ歳入歳出ノ決算ノ特例ニ關スル法律案
同日豫算委員分科會ニ於テ當選シタル正副主查ノ氏名左ノ如シ

第一分科

主查 男爵阪谷 芳郎君

副主查 志村 源太郎君

第二分科

主查 伯爵寺 島誠一郎君

副主查 服部 一三君

第三分科

主查 侯爵佐佐木 行忠君

副主查 木場 貞長君

第四分科

主查 大島 健一君

副主查 男爵名和 長憲君

第五分科

主查 子爵井上 匡四郎君

副主查 矢口長右衛門君

第六分科

主查 石塚 英藏君

副主查 男爵藤堂 高成君

同日請願委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願文書表第二回報告書

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

震災被害地ノ地租免除等ニ關スル法律案

震災ニ因リ地租ヲ免除セラルル者ノ法令上ノ納稅資格要件ニ關スル法律案

砂防法中改正法律案

震災善後公債法中改正法律案

小作調停法案

大正十三年勅令第四十六號(承諾ヲ求ムル件)

大正十三年勅令第二十一號(承諾ヲ求ムル件)

大正十三年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

大正十三年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)

大正十三年度特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第二號)

大正十三年度歳入歳出總豫算追加案(第三號)

大正十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第二號)

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第三號)

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、日程第一、大正十三年度歳入歳出總豫算追加案第一號、第二、大正十三年度歳入歳出總豫算追加案第二號、第三、大正十三年度特別會計歳入歳出豫算追加案特第一號、第四、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第一號、第五、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第二號、第六、大正十三年度歳入歳出總豫算追加案第三號、第七、大正十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案特第二號、第八、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件追第三號、審査期限ヲ定ムルノ件、大藏大臣濱口雄幸君

(第一號)大正十三年度歳入歳出總豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正十三年七月九日

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷義三

(第二號)大正十三年度歳入歳出總豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷義三

(特第一號)大正十三年度特別會計歳入歳出豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷義三

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷義三

(追第二號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷義三

(第三號)大正十三年度歳入歳出總豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷義三

(特第二號)大正十三年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

衆議院議長 粕谷義三

貴族院議長公爵德川家達殿

(追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

衆議院議長 粕谷 義三

貴族院議長公爵德川家達殿

〔國務大臣(濱口雄幸君) 諸君、不肖、今回財政變理ノ重任ニ膺リマシテ、

茲ニ大正十三年度追加豫算ノ大體ヲ説明スル機會ヲ得マシタコトハ、不肖ノ
洵ニ光榮トスル所デアリマス、大正十三年度ノ追加豫算ハ、前内閣ニ於キマ
シテ一應其編成ヲ了シタルモノデアリマシテ、現内閣成立ノ後、是ガ審査ヲ致
シマシタケレドモ、多大ノ變更ヲ加ヘマスル時日ガ無カッタノミナラズ、其内
容亦已ムヲ得ナイ所ノ經費ヲ計上シタモノガ多クアリマシテ、著シキ新規ノ
事項モ無カッタガ故ニ二三ノ點ニ於テ取捨ヲ加ヘタルノミデゴザイマシテ、大
體前内閣編成ノ豫算ヲ踏襲スルコトニ致シマシタノデアリマス、大正十三年
度歳入歳出總豫算追加第一號ハ帝都復興關係ノ經費デアリマシテ、其追加額
ハ四千四十萬餘圓デアリマス、其内、新規ノ追加ガ二千二十萬餘圓、復興局ノ
經費ガ二百六十萬餘圓、既定年割額ノ追加ガ千七百四十萬餘圓デアリマス、
第四十七議會ニ於テ修正成立ヲ致シマシタ所ノ帝都復興關係經費ノ總額ハ四
億六千八百四十萬餘圓デアリマシテ、右修正ノ結果、新ニ東京、横濱ノ兩市
ニ於テ施行スベキ街路費及土地區劃整理費ハ、國ニ於テ補助若クハ貸付ヲ爲
スヲ要シマスルカラ、是ガタメ總額一億五百萬圓ヲ追加スルノ必要ガアルノ
デアリマス、然ルニ右金額ノ内、一部ハ既ニ豫算外ノ支出ヲ了シタルモノガ
アリマスルカラ、將來ノ所要ハ一億二百六十萬餘圓デアリマシテ、大正十七
年度マデ五箇年度ニ互ッテ支出ヲ要スルモノデアリマス、其内、二千二十萬餘
圓ヲ大正十三年度追加豫算トシテ要求イタシマシタノデアリマス、右ノ結果
ト致シマシテ復興局ノ經費ヲ除キマシタル所ノ帝都復興關係ノ經費總額ハ五
億七千三百四十萬餘圓トナリマシタ、大正十三年度歳入歳出總豫算追加第二
號ハ震災復興ニ要スル所ノ經費デアリマシテ、主トシテ政府所有ノ建築物、物
件等ノ復舊費及地方公共團體ノ損害救濟費等ノ經費デアリマス、其總額ハ七

億五百九十萬餘圓デアリマスルガ、此内、一部ハ既ニ豫算外ノ支出ヲ了シタ
ルモノガアリマスルカラ、將來ノ所要額ハ六億六千四百五十萬餘圓デアリマ
シテ、大正二十二年度マデ十箇年度ニ互ッテ支出ヲ要スルモノデアリマス、右
ノ内、一億二千二百三十萬餘圓ヲ大正十三年度追加豫算トシテ要求イタシマ
シタノデアリマス、大正十三年度歳入歳出總豫算追加第三號ハ震災ニ直接關
係ノ無イ所ノ普通ノ經費デアリマシテ追加要求ヲ致シマシタル金額ハ經常部
ニ於テ七千三百二十萬餘圓、臨時部ニ於テ二千九百六十萬餘圓、計一億二百
九十萬餘圓デアリマス、其内、主ナルモノヲ舉ゲテ見マスレバ、恩給ノ増加、
國債整理基金ノ繰入ノ増加、特別會計事業費資金貸付、特別會計關稅補填金
府縣災害土木費ノ補助、第二豫備金ノ増加、海軍主力艦ノ解體費等デアリマ
シテ、尙ホ政務次官ノ設置ニ要スル經費、移民ニ關スル經費ノ増加、陪審法
施行準備ニ要シマスル經費ノ増加ヲモ要求イタシマシタノデアリマス、以上
各號ニ計上イタシマシタ、大正十三年度追加要求額ノ總計ハ、經常部七千三
百二十萬餘圓、臨時部一億九千二百四十萬餘圓、計二億六千五百七十萬餘圓
デアリマシテ、之ニ對スル歳入ハ歳出追加ニ伴フ所ノ收入七百四十萬餘圓、
租稅收入五千四十萬餘圓、公債金一億五千七百七十萬餘圓、前年度剩餘金繰入
五千五十萬餘圓、計二億六千五百七十萬餘圓ヲ計上イタシマシタ、此租稅收
入ノ増加ハ別ニ増稅ノ計畫ニ依ルモノデアリマセス、歳入豫算ハ曩ニ震災
ノ影響ヲ考慮イタシマシテ、相當ノ減收ヲ見積ツテアリマシタケレドモ、震災
後既ニ半歳有餘ヲ經タル今日マデノ實蹟ニ徴シマスルニ、其實際ニ適合セザ
ルモノガアルノデアリマス、依テ其著シキモノニ付キマシテハ、相當其見積
ヲ變更スルコトガ適當デアルト認メマシテ、酒造稅、營業稅、砂糖消費稅等
ニ於テ其見積ヲ増加イタシ、兌換銀行券發行稅並ニ震災地ニ於ケル地租免除
ノタメ地租ニ於テ相當減稅ヲ見積リ、差引五千四十萬餘圓ノ歳入増加ヲ見積
タノデアリマス、次ニ政府ノ公債計畫ニ付テ説明イタシマスレバ、大正十三
年度所要經費ニ充ツルガタメ、新規募債ヲ要シマスル金額ハ、一般會計所屬
ニ於テ帝都復興諸費一億三千四十萬餘圓、震災復興諸費一億九千四百四十萬
圓、計二億四千九百九十萬餘圓、特別會計所屬ニ於テ朝鮮總督府事業費一千
萬圓、帝國鐵道復舊諸費三千五百萬圓、計四千五百萬圓、合計二億九千四百
九十萬餘圓デアリマスガ、政府ハ經濟界ノ現狀ニ鑑ミ、斯ノ如キ巨額ノ公債
ヲ一般市場ニ於テ公募スルノ不可ナルヲ認メマシテ、先ヅ以テ曩ニ英米市場

ニ於テ募集シタル外債ノ内、一億五百餘萬圓ノ之ニ充當シ、又預金部ヲシテ其資金ノ餘力ヲ利用シ、一億五千四百八十餘萬圓ヲ引受ケシメ、其殘額三千五百萬圓ハ之ヲ郵便局賣出ノ方法ニ依ツテ調達イタシ、結局、本年度ニ於テハ一般市場ニ於ケル新規公債ノ募集ハ一切之ヲ行ハナイコトト致シタルデアリマス、尙ホ大正十四年度以降ニ於キマシテモ、緊急已ムヲ得ザルモノヲ除クノ外、公債ノ募集ハ成ルベク之ヲ差控ヘ、殊ニ一般市場ニ於ケル公債ハ出來ル限り之ヲ減少スルノ方針デアリマス、次ニ我國經濟界ノ現狀ニ付テ一言シタイト考ヘマス、我が財界ハ大正九年ノ反動以來茲ニ四年、未ダ整理安定ヲ見ルニ至ラザルニ際シ、偶、昨秋ノ大震災ニ遭遇イタシマシテ、其結果、内ニアリテハ、帝都復興其他各般ノ復興事業ノ爲ニ、今後數年ニ亘ッテ財政上多大ノ負擔ヲ加ヘマシタルノミナラズ、民間各方面ニ於ケル復興事業遂行ノ爲ニ資金ヲ要スルコトガ尠クナイノデアリマス、又外ニアリテハ、復興ニ要スル物資ノ輸入等ノタメ、サナキダニ戰後累年輸入超過ヲ致シマシタル所ノ我が外國貿易ハ、益、逆調ニ陥リマシテ、昨年ノ入超額ハ朝鮮臺灣ノ分ヲ合セテ六億二千二百餘萬圓ニ上ホリ、本年ハ五月末マデニ既ニ六億七千二百餘萬圓ノ入超ヲ告ゲ、爲替相場ハ先例ナキ低落ヲ見ルニ至ッタルデアリマス、固ヨリ斯ノ如キ多額ノ入超ハ震災直後ノ一時的現象デアリマシテ、必シモ永續スベキモノデハナカラウト思ヒマスケレドモ、内外ノ狀況ニ照シマスルニ、今後國際貸借ノ趨勢ハ決シテ樂觀ヲ許サナイノデアリマス、斯ノ如ク我國ノ財界ハ今日最モ多難ノ時期ニ當面シテ居ルノデアリマス、此難局ヲ打開シテ、財界ノ整理安定ヲ圖リ、更ニ進ンデ一般經濟ノ振興ヲ期セムガ爲ニハ財政經濟ノ各方面ニ亘ッテ幾多施設ヲ要スルモノガアリマスルケレドモ、現内閣ハ成立以來日猶ホ淺クアリマシテ未ダ全般ニ涉ッテ具體的ノ對策ヲ決定シテ、之ヲ實行スルノ域ニ達シテ居リマセヌ、併ナガラ其最モ重要ナル根本方策ト致シマシテハ、先ヅ消費ニ對スル政府及國民ノ一大節制ヲ斷行スルニアリト信ズルノデアリマス、蓋シ我國ノ財政ハ戰時中ヨリ比年膨脹ヲ重ネマシテ戰後ノ反動以來、財界ハ不況ニ沈淪セルニ拘ラズ、財政ノ整理緊縮ハ未ダ十分ニ行ハレテ居リマセヌ、是ガ爲ニ財界ノ整理ヲ妨ゲ其發展ヲ阻止シタル所尠クナイノデアリマス、是レ實ニ我國ノ財界ニ於ケル百弊ノ基デアリマス、之ヲ以テ政府ニ於キマシテハ今後、中央及地方ニ於ケル財政ノ整理緊縮ヲ斷行イタシ以テ民間經濟ニ對スル壓迫ヲ緩和スルコトハ、極メテ緊要ナリト信ズルノデアリ

マス、是ト同時ニ國民モ亦戰時好況時代ヨリ馴致サレマシタル輕佻奢侈ノ氣分ヲ一掃シ、政府ノ政策ト相呼應シテ、克己節約ノ美風ヲ涵養シ、勤儉力行以テ資本ノ蓄積ヲ圖リマシテ、將來ニ於ケル經濟的發展ノ基礎ヲ確實ニスルコトニ努メナケレバナラスト考ヘルノデアリマス、是レ總テ我國刻下ノ難問題デアリマスル所ノ物價、產業及國際貸借等ノ諸問題ヲ解決スベキ所ノ關鍵デアリマス、而シテ今後數年ニ亘ッテ、復興事業ノ爲ニ散布セラルベキ所ノ巨額ノ資金ノ如キハ、有ラユル方法ニ依テ之ヲ吸收ヲ致シ、仍テ以テ、徒ニ民間ノ消費ノ増加スルコトヲ防ギマシテ、其吸收シタル資金ハ再ビ之ヲ震災地ノ復興並ニ地方產業振興ノ爲ニ使用スルコトガ最モ機宜ヲ得タル措置ナリト信ズルノデアリマス、仍テ政府ハ中央及地方ヲ通ジマシテ、統制アル組織ノ下ニ有效適切ナル貯蓄獎勵ノ手段ヲ講ジマスルト共ニ、一種ノ小額貯蓄債券ヲ發行イタシ、以テ如上ノ目的ノ達成ニ資シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、之ヲ要スルニ政府ハ時局ノ重大ナルニ鑑ミマシテ、財政經濟上各般ノ施設ニ關シ、最善ノ方法ヲ講ズル考デアリマスガ、此際、最モ大切ナルコトハ經濟上ノ難局ニ對スル國民一般ノ自覺デアリマス、此自覺コソ實ニ時局匡救ノ要諦デアリマシテ國民一般ハ此自覺ヲ以テ現下ノ難局ニ當リ、奮勵努力以テ、我が經濟力ノ充實ヲ圖リ國運ノ伸暢ニ貢獻セムコトヲ切望シテ止マナイノデアリマス、終リニ臨ミマシテ、諸君ハ十分御審議ノ上、政府提出ノ豫算案ニ對シマシテ、御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ通告順ニ依リマシテ質疑ヲ許シマス

〔矢口長右衛門君演壇ニ登ル〕

○矢口長右衛門君 唯今、大藏大臣ノ説明ニ依リマシテ大體了解イタシマシタ、尙ホ疑義ノアル所ガゴザイマス、其疑義ヲ質スニ先チマシテ一言茲ニ申上ゲルコトガアル、衆議院ニ於テハ非常ニ質問續出ナルニ反對シ、當我ガ貴族院ニ於テハ、實ニ靜肅ニシテ、而シテ過日ノ總理大臣ニ對スル質問ノ如キモ纔ニ阪谷男、柳澤伯等ニ依ッテ、一二質問サレタノミデ、殆ド質問ハ無イト言ウテモ宜イ位デアリマス、勿論、唯徒ニ質疑ヲ提シテ時日ヲ費スコトノ非ナルハ私ノ言フマデモゴザイマセヌガ、サリトテ眞ニ疑義ノアル者ハ之ヲ十分ニ質シ、又政府當局ノ意ノ在ル所ヲ諒スルハ決シテ不當ノモノデナイト本員ハ信ズルノゴザイマス、世間デハ此内閣ノ成立シタ當時ニ、現内閣ハ非常ニ政見ノ違ッタ者ノ集合體デアッテ、其協調等ハ如何デアルカト云フコトヲ

パ類ニ心配サレタ者ガゴザイマス、幸ニモ内閣成立以來、諸公ニ於テハ能ク協調ヲ保タレ、而シテ國政ニ熱心ニ當ラレテ居ルコトハ我輩ノ大ニ謝サナケレバナラヌ所デゴザイマス、又高橋犬養ノ兩相ノ如キハ十分己レノ謙遜忍耐等ノ美德ヲ發揮セラレ、而シテ此内閣ニ於テ力ヲ盡サレテ居ルコトハ、兩君ニ向テ茲ニ敬意ヲ拂フ次第デアリマス、如何ナル内閣デモ、ドンナニ人材ヲ揃テアツテモ、其永續スル所ノ時間ガ僅デアツテハ、決シテ效果ヲ舉グルコトガ出來ヌト云フコトハ、是ハ明瞭ナ話、願ハクハ現内閣ヲシテ相當ノ期間永續シ、十分ニ政策ノ效果ヲ現ハサレムコトヲバ切ニ希望スル次第デゴザイマス、諸君先刻ノ大藏大臣ノ演說中ニ就キマシテ非常ニ明瞭イタシ、殆ド一點ノ疑ノ存スル所モ無イト云フヤウニ考ヘマシテ、吾々モ洵ニ満足スル次第デゴザイマスガ、茲ニ一ツ伺ヒタイコトガ一ツアルノデアル、ソレハ其唯今ノ御演說中ニ財政ノ整理緊縮ヲ斷行スルト云フコトヲ申サレマシタ、デハ是ハ歴代ノ内閣ガ何レモ主張スル議論デ俗ニ申ス初ハ脱兎ノ如ク、終リハ處女ノ如シト云フヤウニナルノガ是マデノ内閣ノ殆ド常套デアル、然ルニ此内閣ニ於テハ決シテサウ云フコトハナイトハ信ズル、又濱口君ノ手腕、財政上ノ意見等ニ付テハ充分私共ハ信頼シテ居リマシタ、併シ時ニハ内部ニモ或ハ種々ノ情實ノ纏綿セナイトモ限ラヌ、又外界カラハ色々ノ牽制ヲ受ケナイトモ限ラヌ、其時分ニアツテ折角ノ自分ノ所信ヲ斷行スルト云フ時ニ躊躇スルコトガナイカト云フコトヲバ本員ハ疑ハザルヲ得ナイノデゴザイマス、ドウゾソレ等ニ付テノ十分ノ御決心十分ノ勇氣ヲ以テ此難局ニ處セラレルト云フ其勇氣ヲ、私ハ非常ニ望ムモノデゴザイマス、ソレ等ニ對シテ如何ナル程度マデ十分ノ御奮發ヲナサルカ、其邊ノ決心ヲバ切ニ伺ヒタイノデゴザイマス、藏相ノ答辯ニシテ満足デゴザイマスレバ、我々ノ意ニ滿ツルモノガゴザイマシタラバ、決シテ餘分ノ質問等ハ致サヌ積リデゴザイマス、又此モ豫算追加案ノ如キハ殆ド是ハ前内閣ノモノヲ踏襲シタ位ノモノデ疑義ヲ挾ム所ガ無イ、私ノ唯疑義ノ一點ハ前申上ゲタル一項デゴザイマス、之ニ付キマシテドウゾ吾人ヲシテ安心セシムル所ノ御答辯ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

〔國務大臣濱口雄幸君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 唯今ノ矢口君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、先刻ノ演說ニ於テモ申述べマシタ通り、今日ノ我國ノ經濟界ハ、内ニアツテハ國民生活ノ狀況カラ申シマシテモ、外ニアツテハ國際貸借ノ關係カラ申シマシテ

モ、非常ナル所ノ難局ニ當ツテ居ルト云フコトヲ私共十分ニ承知ヲ致シテ居リマス、而シテ之ヲ根本的ニ救済スルノ方法トシテハ種々ノ施設ガアリマセウケレドモ、何ヲ差置キマシテモ、之ニ對スル對策ノ第一ニ就テ、根本政策ト致シマシテハ行政財政ノ大整理緊縮ヲ行フノ外ハナイト思ツテ居リマス、此行政財政ノ大整理緊縮コソ總テノ問題ヲ解決スベキ所ノ關鍵デアルト云フコトハ、先刻モ申上ゲマシタ通りデアリマス、現政府ハ恰モ國民經濟上、國家財政上ノ非常ナル難局ニ際シテ此責任ヲ擔當シタ譯デアリマス故ニ、政府全體ノ決心ト致シマシテ、何ヲ差置イテモ此行政財政ノ整理緊縮ヲ斷行スルト云フ固イ所ノ決心ヲ有ツテ居ル譯デアリマス、而シテ其行政財政ノ整理緊縮ハ、行政財政ノ全般ニ亙ツテ居リマス、何レノ部分ニ於テハ之ヲ整理シ、何レノ部分ニ於テハ之ヲ整理シナイト云フヤウナコトハアリマセヌ、廣ク全體ニ亙ツテ十分ナル所ノ整理緊縮ヲ行ヒタイト云フ決心ヲ有ツテ居リマス、其程度金額ノ如キニ至ツテハ、今日ニ於テ遺憾ナガラマデ御答ヲ申上ゲル時期ニ達シテ居リマセヌガ、最善ノ努力ヲ致シマシテ其整理緊縮ヲ致シタイト思ヒマス、是ダケヲ御答ヘ致シマス

〔藤本閑作君演壇ニ登ル〕

○藤本閑作君 私ハ唯今ノ大藏大臣ノ御方針ヲ承ハリマシテ聊カ敬意ヲ表シ且ツ満足ヲ表スルモノデアリマスルガ、此御演說ノ趣意ヲ尊重イタシ又忖度イタシマシテ、茲ニ以下數項ノ御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、第一ニ伺ヒマスルノハ、復興計畫ニ伴フ所ノ諸般ノ費用ハ唯今御説明ニナリマシタヨリ以上ニ將來増加ラセズニ御遂行ガ出來ルノデアリマセウカ如何デアリマセウ、次ニ伺ヒマスルノハ、將來國ガ施設經營スベキ各種ノ事業ハ大震災ト都市集中ノ弊ニ鑑ミテ適當ニ東京、横濱以外ノ各地ニ分布スルノ方針ナリヤ否ヤ、此點ヲ先ヅ御伺ヒシタイト思ヒマス、震災ノ復興ニ付キマシテハ莫大ノ費用ガ要リマスカラ、國ノ負擔モ地方ノ自治體ノ負擔モ此復興ノ完成マデニハ莫大ノ數字ガ現ハレマスルコトハ、洵ニ遺憾ノ次第デアリマスル、曩ニ山本内閣ハ其成立當時輕率ニモ龐大ナル所ノ復興計畫ヲ立テマシテ、國民ノ負擔モ顧慮セズ、驚クベキ所ノ巨額ノ國費ヲ費サムトシタノデアリマスルガ、忽チニシテ輿論ノ反對ニ遭ヒ、衆議院ノ一喝ニ遇ヒマシテ、其計畫ガ縮小セラレマシタノハ、國民ノ大ニ幸トスル所デアリマスル、熟シ六大都市既往ノ發展ノ事蹟ヲ窺ヒマスルノニ、從來ノ政治家ハ何事モ東京本位デアリマシテ、

歴代ノ政府亦東京ノミニ最モ力ヲ注ギ、各般ニ互リマシテ直接ニ間接ニ多大ノ援助ト費用ヲ惜マナカッタモノト信ズルノデアリマス、ソレ故、大東京市トモナリ、中央集權トモナリ、文化ノ中心トモナッタノデアリマス、其爲ニ國民ハ大ナル餘澤モ受ケマシタガ、又大ナル弊害モ受ケテ困難ヲ致シタト云フヤウニ、私ハ察スルノデアリマス、即チ奢侈、驕恣、道德信義ノ頹廢、思想ノ惡化等ハ遺憾ナガラ蓋シ東京ガ本場デアリマスマイカ、斯ノ如キハ列國ノ趨勢ニ鑑ミマシテ單リ東京ノミデアリナイト云フ論者ガアルカモ知レマセヌガ、私ハ俄ニ其鳴スルコトハ出來ナイノデアリマス、由來農村振興ノ聲ハ數年前ヨリ連續イタシマシテ、其響ノミ徒ラニ高クアリマシテ、其反響ノ得ラレナイノハ、抑、誰ノ責任デアリマセウ、今全國各地方ノ實情ヲ觀察イタシマスレバ震災前ニ於キマシテ、既ニ地方ノ自治體或ハ農村ノ疲弊ハ窮迫イタシテ居ッタノデアリマス、然ルニ是ガ救済ノ曙光ハ今尙ホ見エナイノデアリマス、農村商家ヲ通ジテノ生活上ノ不安ハ頗ル深憂ニ堪ヘナイノデアリマス、現代ノ社會ノ問題、緊要ナル所ノ教育、衛生、其他種々ノ緊要ナル施設ニ對シマシテ、此地方ノ援助ニ向ッテ政府ガ頗ル緩慢ナル態度ヲ執ッテ居ラレルノデアリマス、東京、横濱ノ識者ヲ初メ、廣ク兩市ノ一般市民諸君ハ果シテ共存共榮ノ真心ヲ以チマシテ、此農村ニ同情ヲ寄セラレテ居ルノデアリマセウカ、歴代ノ政府ハ此地方農村ヲ繼子扱ヒニセラレタ御覺ハナイノデアリマセウカ、京濱ノ市民……東京、横濱ノ市民ト、ソレ以外ノ多數ナル全國ノ國民ト比較イタシマシテ、國家ノ恩典ニ厚薄ノ程度ガ最モニ最モ付ケマシテ、割増ニ割増ヲ付ケマシテモ、尙且ツ首肯シ得ラレルデアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、私ハ大イニ疑問トシテ居ル一人デアリマス、左様イタシマシテ吾人ガ夢想セザリシ所ノ昨秋ノ大震災ハ國民ヲシテ啞然タラシメタノデアリマス、之ガ復興ニ當リマシテハ素ヨリ既往ヲ精察シ將來ヲ慮リ、廣ク國民ノ休戚ニ鑑ミマシテ、虚心坦懷ニ、又其計畫ヲ遂行イタシマスルコトハ、深甚ナル用意ト周到ナル注意ニ立脚セネバナラヌコトハ、當ニ政治家ノ本領タルコトハ申スマデモナイコトト思ヒマス、此震災ガ空前ノ災害トハ申シナガラ、若モ此復興事業ニ偏重偏傾シ熱中シテ國民全體ノ力ヲ養フベキ所ノ根幹ヲ培養スベキ各種ノ施設ト誘導啓發ヲ閑却スルコトガアリマシタナラバ、所謂蜀山兀トシテ阿房出ヅ、東京、横濱ノ如何ナル大厦高樓ガ軒ヲ竝ベ目覺メマヌヤウナ大道路ヤ築港ガ出來マシテモ、地方民衆ノ懷中ハ秋風落莫トシテ殆ド蜀山ノ

如キニナラヌトモ限リマスマイ、或ハ現ニナリツツアルカモ知レマセヌ、從テ忌ムベキ所ノ各種ノ社會問題ガ續發セムモ測ラレヌノデアリマス、希クハ斯カル不祥ノ現象ガ發生セザラムコトヲ祈リマシテ、此質問ヲ致シ、尙ホ政府ノ考慮ヲ促スト共ニ復興費ノ成ルベク節約アラムコトヲ望ムノデアリマス、更ニ私ノ希望ヲ申上ゲテ見マスレバ、東京ハ華族諸公ヲ初トシテ天下富豪ノ唯一ナル集團地デアリマス、其人數ハ幾何デアルアカト云フコトハ審ニ私ハ承知イタシマセヌガ、此方々ガ居テ東京ニ置カレマシテ以來、精勵多年、年々歲々其富モ増殖イタシタコトニ國民一同ハ驚異ノ眼ヲ以テ或ハ指ヲ唧ヘテ眺メテ居ルノデゴザイマス、此資産ノ額ハ測リ知ルベカラズデアリマスガ、蓋シ驚クベキ巨額デアルト云フコトハ想像ニ難クナイノデアリマス、此驚クベキ富ノ持主諸君ガ共同一致セラレマシテ、此國難ノ場合ニ豫ネ下シ賜ハラレテアル所ノ聖旨ヲ奉體セラレ、私ヲ棄テテ公ニ殉ジ、所謂至誠ノ發露ニ依リマシテ義勇奉公ノ一大奮發ヲ爲サレト共ニ、平素修養セラレテ在ラツシヤル所ノ宗教心ノ旺盛トニ依リマシテ、有ラユル犧牲ノ實現ハ誠ニ千載一遇、方ニ此秋デアリトシタナラバ、國民ガ嘆稱感謝イタスベキ底ノ相當ナル義捐ヲバ、恰モ大戰等ニ於ケル當時ノ愛國公債ノ意味ノヤウニ醗集ヲ致サレマシテ、之ヲ自治團體ニ融通ヲシテ、復興ノ資源ニ提供セラレ、其反響ヲ致シテ國民ノ負擔ヲ輕減セシムルノ美舉ガアリマシタナラバ、當ニ此難局ヲ救済イタシマシテ聖旨ニ奉答スル適切唯一ノ途デアルバカリデアリマセヌ、一面ニハ普ク範ヲ天下後世ニ貽サレ、社會風教上ト、混亂セル思想ノ上ニ大ナル貢獻トナルコトハ私ノ固ク信ズル所デアリマス、固ヨリ震災當時ニ於キマシテ一時ノ急場ヲ救フベク相當ノ義捐ヲセラレマシタト云フコトハ、毫モ疑ハヌノデアリマス、併シソレハ全國民モ貧富ノ別ナク相當ノ義捐ヲシタノデアリマス、何シロ永年ノ間富豪諸君ハ帝都ニ在住セラレテ、自然的ニ大東京市ノ餘惠ニ浴シ巨萬ノ資財ヲ擁シテ日夜文化ノ中樞地ニ活動セラレツツ、人生大半ノ目的希望ヲ他ノ國民ト比較シマシタナラバ、ヨリ以上ニ達セラレツツアルト思フノデアリマス、ソレ故、賢明ナル富豪諸君モ既ニ何等カノ御腹案ガアルカモ知レマセヌ、又自治團體ノ當局竝ニ其樞機ニ參セラレル方モ此邊ニ考慮ヲ運サレルコトト信ズルノデアリマス、政府モ亦熱心ニ之ヲ德憑スルノハ蓋シ機宜ノ處置カト思フノデアリマス、次ニ伺ヒタイノハ大藏省ノ預金部制度ノコトト、會計検査院組織改革ノ件デアリマス、現在ノ預金

部制度ヲ十分承知イタシマセヌ私ガ此御尋ラ致スノハ大ニ躊躇スル所デアリマス、是マデモ先輩諸公カラ致シテ定メテ此御發議ガアルカトモ思ウテ居リマシタ、然ル所、其内ニ内閣ハ頻々ト更迭ガアリマス、ソレデ私ハ一種ノ疑惑ニ冒サレル爲ニ茲ニ此御尋ラスルノデアリマス、承ハル所ニ依リマスレバ現在ノ預金部ノ制度ハ、政府ニ取リマシテハ至ッテ都合ノ宜イノデアリマシテ、所謂伸縮自在ノ作用ヲ爲スモノカノヤウニ世上ニハ噂ヲサレルノデアリマス、從テ其裏面ニハ洵ニ盤據スベキ事柄ガ時々起ルカトモ云ハレマス、加之大キナ失敗ノ原因製造所デアルカノ如クニモ聞イテ居リマス、又既往ニ於テ其事實ガアルトモ申スコトデアリマス、ソレハ兎モ角ト致シマシテ、最近、前内閣ハ其運命ガ旦夕ニ迫ッテ居ル其退却ノ間際ニデサヘ、彼ノ特殊銀行タル所ノ朝鮮銀行ニ對シテ、此財政窮迫ノ場合、國民ハ低利資金ノ貸出ヲ全國到ル所ノ團體カラ續々申込デ居ル際デアリマス、此場合ニ大藏大臣御一人ノ御料簡カ否カハ存ジマセヌガ、兎ニ角、特殊銀行タル朝鮮銀行ニ五千萬圓ヲ貸出サレタト云フコトハ事實デアリマス、其裏面ニ不純ナコトハアリマスマイカ、私ハ實ニ呆果テルノデアリマス、國民モ定メテ満足ニハ思ハスコトト信ジマス、以上ヲ申述ベルサヘ私ハ甚ダ心外ニ存ズルノデアリマス、要スルニ現行ノ預金制度ガ……預金ヲ取扱フ所ノ制度ガ不備不完ノモノデアリマスカラ、色々ナ缺陷ガ起リ、色々ナ風評ガ社會ニ宣傳セラレルノデアルト存ジマス、ソレ故、速ニ公明正大ナル所ノ立脚ノ上ニ於テ、此預金全部ノ取扱ノ制度ヲ改正スル必要ヲ御認メニナルノデアリマス、如何デアリマスルカ、此事ガ伺ヒタイノデアリマス、尙ホ伺ヒタイノハ政府ハ會計檢査院ノ組織ヲ改正スルノ意思ナキヤ、年々數十億ノ我リ國庫ノ收支ヲ監督査スル所ノ會計檢査院ノ組織ハ、昔ナガラノ成行デアリマシテ何等著シキ所ノ變リハ無イカト存ズルノデアリマス、是ハ誠ニ時勢ニ適合セザルモノカト存ズルノデアリマス、サリナガラ歴代ノ政府、或ハ先覺者ノ間ニハ既往何レノ時ニカ此問題ガ起リマシタニ相違アリマス、唯問題ハ起リマシテモ其改正ト云フコトガ實現シナイノハ、政府當局ガ非常ナ窮屈ナ目ニ遭ハネバナラヌカラデハアリマスマイカ、露骨ニ申セバ政府ノ身勝手ナ働キガ仕惡イカラデハアリマスマイカ、此意味ニ於テ兎角問題ハ起リマシテモ議論倒レニナッテ居ルノデアアルマイカト想像ヲスルノデアリマス、每議會ノ決算委員會ノ速記録ヲ拜見ヲ致シ、尙ホ大正八年九年ノ歳入出決算ガ、本院ニ於ケル

審査報告ニ依リマスレバ、大正八年ハ政府ノ監督宜シキヲ得ズ官紀弛廢ノタメ國庫ニ多大ノ損害ヲ及ボシマシタ彼ノ有名ナル寶塚ノ郵便局長ノ横領二百四十萬圓ハ別ト致シマシテ、外ニ政府ノ措置穩當ヲ關クモノト認ムルモノガ、大正八年ニハ十一件、大正九年ニハ六件デアリマス、他ニ將來注意ヲスベキモノト認ムルモノ、ソレガ大正八年ニハ二百四十一件、九年ニハ百九十四件デアリマス、斯ノ如ク毎年政府ガ將來ニ注意ヲ要スベキモノト認ムルト云フ此決算委員會ノ審査ガ出來マシテ、多數ノ件數ヲ指摘イタサレテ居ルノデアリマスルガ、其指摘イタサレタ内容ハ強チ不當ト云フノデアリマスマイ、サレドモ最モ純ナル所ノ收支デナイト云フコトハ明カデアリマセウ、而シテ事ノ大小ニ依リマシテ、當局ハソレノ戒飭セラレテアルト云フコトモ疑ハヌノデアリマス、併シ毎年同様ナ意味ノ件數ガ少カラヌヲ甚ダ遺憾ニ存ジマス、ソレノミヲ以テ私ガ此質問ヲ云爲シヤウト思フノデアリマセヌガ、此檢査院ナルモノガ、法規ト云フ制度ニハ形式上ダケハ當欲ッテ居ル收支デアッテモ餘リ杓子定規バカリニ偏シテ所謂機械的ノ會計檢査デハ、國家ノ爲ニ效果ガ薄イト信ズルノデアリマス、此龐大ナル所ノ年々數十億ノ國費ノ收支ニ付キマシテハ、申スマデモナク慎重ニ檢査ヲ致シ、其檢査ヲ致シマスル所ノ眼目ハ國民ノ蒙ル所ノ迷惑ガアルカナイカ、國家社會ノ利益ガ尊重セラレテ居ルカドウカ、或ハ建築ニ致シマシテモ、物品ノ購入ニ致シマシテモ、其質、其内容ヲモ宜シク取調ヲ致サレテ檢査ガアルコトヲ望ムノデアリマス、又例ヘテ申シマスナラバ兩院議員ノ如キ現在相當ナ旅費ヲ支拂ッテアル上ニ乗車ノ「パス」マデ渡シテアルノハ如何ナルモノデアリマセウカ、或ハ各省ヲ通ジテ囑託ト云フ名稱デ官制以外ニ華族諸公ヲ始メトシ、元官吏タリシ人其他ノ方々ヲ任命イタシテ、相當ナ報酬ガ出テ居ルト云フコトヲ聞クノデアリマス

〔ヒヤノ〕「ト呼フ者アリ」

是ハ多年ノ因襲カト承知スルノデアリマスルガ、要スルニ事實上、政務ノ參考ニ必要缺クベカラザルモノデアアルカ、或ハ囑託其人ガ報酬ニ伴フベク忠實ニ勤務シテ居ルカドウカ、是ハ聊カ疑ナキ能ハズデアリマス、眞ニ國家ノ政務ノ上ニ於テ必要トアレバ論外デアリマス、若シモ官僚ノ遺物デアアルカ、乃至因緣情實カ、將タ政略上カラトスルナラバ、國民ハ以テノ外ニ憤慨スルノデアリマセウ、以上ハ私ノ僅ニ知リマシタ僅ニ聞キ及ビマシタ所ヲ申述ベマシタノ

デアリマスルガ、要スルニ會計検査院ナルモノノ威力ヲ以チマシテ國費ノ濫費ヲ防ギ、一面ニハ預金部デアラウガ、逓信省ノ低利資金デアリマセウガ、總テ悉ク検査監督ヲ致シマシテ、國家經濟上、缺陷ヲ少カラシメムコトヲ趣旨トスルノデアリマスル、彼ノ司法權ノ獨立ノ如ク大ニ權威アルヤウナ仕組ニ改正スルノ必要ガアルト思フノデアリマス、凡ソ小サナ世帯ノ時分ト大キナ世帯トナツタ折ト矢張り何等ノ變リナク同ジ型、同ジ方式デ以テ國民ノ膏血カラ生レテ來マス所ノ我が財政ノ取締ヲ、徒ラニ舊套ニ泥ムノハ如何カト思フノデアリマス、況ヤ道義頹廢セムトスル今日デアリマス、現内閣ハ成立早々綱紀肅正ヲ宣言セラレマシテ國民ノ誠ニ喜ンデ居ル所デアリマス、仙石鐵相ノ如キハ劈頭既ニ其一部ヲ實現セラレマシタコトハ、私ノ大ニ敬服スル所デアリマス、此機會ニ於キマシテ大藏大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

〔國務大臣若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(若槻禮次郎君) 藤本君ノ御質問三箇條ノ第一箇條ハ復興豫算ニ關係シテ居リマスノデ、其點ハ私カラ御答辯ヲ申サウト思ヒマスガ、唯、藤本君ノ御質疑ノアル所ガ聊カ解シ兼ねテ居ル點モアリマスルガ、私ノ解スル所ニ依レバ斯様ナ御質疑デアッタヤウニ思ヒマス、今回ノ復興豫算ハ割合ニ經費ガ多イ、ソレガ爲ニ農村復興、其他地方開發ノ資金ヲ復興ノ方ニ吸收セラレテ、是ガ爲ニ地方ノ振興ガ妨ゲラルルヤウニ思フガ、成ルベク復興ノ費用ヲ少クシテ地方ノ開發ヲ妨ゲナイヤウニスル考アリヤ否ヤト云フヤウナ大體ノ御意嚮デアッタヤウニ思フノデス、現内閣ハ今日ノ農村ノ狀態ニ對シテハ非常ニ同情ヲ持ツテ居ルノデアリマス、此狀態ハ何トシテモ……何トカシテ是ガ振興ヲ圖フナケレバナラヌト云フ考ヲ持ツテ居リマスカラ、何レ是ガ方策ハ具ヘテ次ノ議會ニ提出スルコトト思ヒマス、此事柄ハ此度ノ復興豫算ヲ提出シタ爲ニ妨ゲラレナイト云フコトダケハ私ガ固ク信ジテ居ルノデアリマス、今回ノ復興豫算ハ金額ハ甚ダ大キアルノデアリマス、併シ金高ノ多イノハ災害ガ大イナリシ故デアルト云フコトヲ承知ヲ致サナケレバナラヌノデアリマス、政府ハ成ルベク少イ金デ復興ノ事ヲ致シタイト思ヒマスガ、併ナガラ非常ナ慘害デアリマシテ、是ガ恢復ヲ圖ルガ爲ニ相當ナル金額ヲ要スルコトハ已ムヲ得ナイノデアリマス、山本内閣ノ時ニ提出セラレタ豫算ガ衆議院ニ於テ改正ヲセラレタ、……修正ヲセラレタ、其精神ハ現内閣ハ能ク之ヲ尊重シテ此度

ノ豫算ハ提出イタシタノデアリマス、當時、衆議院ノ考デハ、唯復興ニ付フハ十二間以上ノ道路グラキマデヲ國ニ於テ施行シテ、其他ノコトハ自治體ノ負擔ニ於テ爲サシメ然ルベキデアル、若クハ地主組合等ノ負擔ニ於テ爲サシメテ然ルベキモノデアアルカラ、國費ヲ以テ支辨スベキモノハ十二間道路以上グラキナ所ニ止メテ計畫スルガ宜シイト云フノデ、豫算ノ修正ニ相成ッタノデアリマス、此趣意ハドコマデモ現内閣ハ之ヲ尊重イタシテ居ルモノデアリマス、ソレ故ニ此度ノ復興ノ豫算モ國デ之ヲ實行スルノデアリマセス、東京市、横濱市ト云フ自治體ヲシテ之ヲ實行セシメ、自治體ヲシテ是ガ費用ノ負擔ニ任ゼシメルノデアリマスガ、唯、今日ハ如何ニモ非常ナ慘害ヲ受ケテ、目下直チニ東京市カラ此資金ヲ調達シテ支出セシメルト云フコトハ困難デアリマス、ソノデアリマス故ニ、國ノ方カラ暫ク其資金ヲ貸付ケテ、サウシテ此復興ノ事ヲ實行セシメル、他日ハ東京、横濱ノ資力ニ於テ國ニ向ッテ之ヲ辨償セナケレバナラヌト云フコトニ依ッテ此度ノ經費ヲ要求シテアルノデアリマス、而シテ衆議院ニ於テモ議論ガアリマシテ、此經費デ實行ガ出來ルカドウカ、或ハ追加豫算ヲ更ニ出シテ要求スルコトハナイカ、左様ナコトガアレバ地方ノ開發ニ用ユベキ資金ヲ、此帝都復興其他横濱ノ復興等ニ吸收セラレテ、地方ノ開發ガ妨ゲラルルコトニナル虞ガアル、ソレ故ニ此豫算ノ追加ヲ要スルヤウナコトハナイカ、ト云フヤウナコトガ、衆議院ニ於テモ心配セラレタ點デアリマス、私ハ此豫算ハ十分色々ナ計算ヲ以テ調べ上ゲタ豫算デアリマスカラ、唯今計畫セラレテ居ル事業ハ是ダケノ金額ヲ以テスレバ實行ハ出來ルト信ジテ居ルノデアリマス、此以上ニ更ニ金額ノ増加ヲ求メル必要ハナイト思ヒマス、併シ何分「バラック」ヲ建テマシテモ、何ヲ建テマシテモ、月日ニ變ッテ參リマスカラ、從ッテ計算シテ居ル所ニ若干動キガアラウト存ジマス、併シ少々ナ動キハ此豫算ノ範圍ニ於テ實行スル事柄ノ上ニ於テ、極ク局部ノ所ナドハ場合ニ依リマスト現ニ計畫セラレ居ル通りデナク、若干費用ガ減ズルヤウニ努メテ參リマシタナラバ、其餘ル所ノモノヲ以テ他ノ足リナイ所ハ補フコトガ出來ルト思ヒマスカラ、此豫算計畫デ以テ、更ニ追加ヲ要求セスデモ出來得ルト信ジテ居ルノデアリマス、ドコマデモ此計畫デ、計畫セラレタル事業ヲ完成シ、而シテ出來ルナラバ此費用ノ中デモ儉約ノ出來ル限リハ節約ヲシテ、豫算ノ執行ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、復興豫算ニ關シテ御答辯申上グベキコトハ大體是ダケデアラウト存ジマスガ、若シ此以外ニアリマシタナラバ更ニ御答

へ申上ゲマス、他ノ二ツノ質問ハ大藏大臣ノ所管デアリマスカラ、其方カラ答辯ガアル筈デアリマス

〔國務大臣濱口雄幸君演壇ニ登ル〕

○國務大臣濱口雄幸君 唯今ノ藤本君ノ御質問ニ御答ヘ致シマスガ、第一ニハ預金部ノ制度ノ改善ニ付テ、政府ハ如何ナル意見ヲ有ッテ居ルカト云フ御趣意ノ御質問デアリマシタ、藤本君ノ御説ヲ承ヘッテ居リマス云フト、預金部ノ資金ノ運用ニ付テハ、一ニ大藏大臣ノ裁量專斷ニ依ッテ如何ヤウトモナルモノデアアル、從ッテ其資金ノ運用ハ或ハ妥當ヲ闕ク、穩當デナイト云フ場合モアルヤウデアアルシ、ママ或ハ弊害ヲ伴フト云フ虞ガナイデモナイ、斯ノ如キ狀態ニ放任ヲシテ置クト云フコトハ如何ニモ面白クナイコトデアルカラ、之ニ對シテ相當ニ制度ノ改善ヲスルト云フ考ハナイカ、ト云フ御意見デアリマシタガ、是ハ政府ニ於キマシテモ、藤本君ト全然同様ノ考ヲ有ッテ居リマス、既往ノ實蹟ニ於テ如何ナル事ガアリマシタカ、ドウ云フ貸付ヲシタカ、ドノ貸付ガ穩當デナカッタカト云フ如キコトハ私ハ指摘シテ申スノデアアリマセヌガ、全ク此資金ノ運用ハ他ニ之ヲ掣肘スル者ガナク、検査院ノ検査ニハ掛リマスケレドモ、政府部内ニ於テハ、一ニ大藏大臣ノ專斷裁量ニ依ッテ決セラレルコトニナッテ居リマス、其結果往々ニシテ世間モ疑惑ヲ抱キ或ハ弊害ノ生ズル虞ガアルト云フ疑ヲ受クルニ至ルコトハ已ムヲ得ナイ所デアラウト思ヒマス、斯ウ云フ狀態ノ下ニ放任ヲシテ置クト云フコトハ、決シテ好マシイコトデハナイト思ヒマス、茲ニ於テ預金部ノ制度改善ニ關スル議論ガ多年ノ間政府部内ニ於テモアリマシタシ、又民間ニ於テモ其議論ガアッタノデアリマス、然ルニ如何ナル事情ガアリマシタカ、種々ノ事情ノ爲デアリマセウガ、今日ニ至ルマデ、未ダ改善ヲサレズニ參ッテ居リマス、其結果トシテ最近ニ於テ預金部制度ノ改善ヲ希望スル聲ガ愈々高マッテ來タ狀態デアリマス、政府ニ於キマシテモ深く預金部資金ノ運用ノ狀況ニ付テ見ル所ガアリマスルカラ一層調査研究ヲ進メマシテ、成ルベク近キ將來ニ於テ具體的ノ改善案ヲ立テマシテ、御相談ヲ申ス機會ガアルト云フコトヲ期待シテ居ル次第デアリマス、而シテ此改善ノ方法ニ付テハ、未ダ具體的ノ案ヲ有ッテ居リマセヌ、世間ノ多クノ議論ヲ承ハリマス云フト、一ツノ委員會ノ如キモノヲ設ケテ、ソレヲ大藏大臣ノ諮問機關ト致シテ、其委員會ノ力ニ依ッテ運用ノ專横ニ流ルルコトヲ抑制ヲシタラドウデアラウト云フ意見モアルヤウデアリマス、此委員會ノ制度モ固

ヨリ大ニ是ハ考慮スベキ事柄デアリマシテ、果シテ委員會ヲ設ケルコトガ宜シイト致シマシテモ、此委員會ノ組織ハドウスルカ、政府部内ノ者ノミヲ委員トスルカ、或ハ貴衆兩院議員、若クハ民間ノ人々ヲ參加セシムルノガ宜シイノデアアルカ、又其權限ハドウスルカ、單純ナル大藏大臣ノ諮問機關タルニ止ムルカ、或ハ或點ニ於テハ執行力ヲ持ッタ所ノ委員會ニスルカ、ト云フヤウナ點ニ付テモ、幾多考究スベキ事柄ガアルノデアリマス、或ハ委員會ノ方法ニ依ラズ、其他ノ方法ニ依ッテ改善ヲスルコトガ適當デアルト云フ結論ニ達スルカモ知レマセヌ、依ッテ是等ノ凡テノ事ハ篤ト調査考究ヲ致シマシテ、出來得ル限り速ニ預金部資金運用ノ制度ニ對シテ改善ノ途ヲ立テタイト思ッテ居リマス、其次ニ會計検査院ノ組織ヲ改正スルノ意思ナキヤ、斯ウ云フ御質問デアリマシタ、如何ニモ御説ノ通り年々歳々政府ノ決算ニ對シテ會計検査院ノ報告ヲ見マスルト云フト、政府ノ措置ガ不法者若クハ不當ト認ムルモノガ絶エナイノデアリマス、検査院ガ設ケラレテ以來、政府ノ決算ヲ審査スルコト、隨分長イ間デアリマスルガ、今日ニ至ルマデ其不當處分、不法處分トシテ指摘サレタ所ノ數ガ餘リ減ラナイト云フコトハ洵ニ是ハ遺憾千萬ニ存ジマス、固ヨリ或ル點ニ於テハ政府ノ考ガ検査院ノ考ト意見ヲ異ニスルモノモアリマスルガ、意見ヲ同ジクシテ如何ニモ是ハ不當デアッタ、不法デアッタ將來注意スベキコトアルト云ッテ、検査院ノ検査報告ニ同意ヲ致シタモノガ澤山アリマスガ、其數カラ申シマシテモ累年餘リ減少ヲ見ナイト云フコトハ洵ニ遺憾千萬ト私ハ考ヘテ居リマス、斯ノ如キコトニ對シマシテハ一口ニ申シマスレバ、中央政府ガ部下ノ官吏ヲ監督スル上ニ於テ未ダ行届イテ居ナイ點ガアルト云フコトヲ證明スルモノデアルト云ハレテモ、是ハ致シ方ガアリマセヌ、政府ハ將來ニ向ッテ斯ノ如キ點ノナイヤウニ、如何ニモ是ハ不當デアアル、不法デアアル、將來ニ向ッテ注意ヲ要スルコトアルトシテ検査院ノ検査報告ニ同意ヲシタ同ジ種類ノコトニ付テハ、將來ニ向ッテ再ビ左様ナ事柄ガ繰返サル、ト云フ如キコトヲ避ケル爲ニ、十分ナル監督方法ヲ設ケタイト思ッテ居リマス、ソレカラ種々ノ例ヲ御舉ゲニナリマシタガ、或ハ鐵道ノ「パス」ノコトデアアル、或ハ各省ノ勅託ノコトデアアルト云フ如キ例ヲ御舉ゲニナリマシタ、政府部内ノ官紀ノ振肅ト申シマスカ、十分ニ行ハレテ居ナイト云フ御話ガアリマシタガ、私ハ個々ノ問題ニ付テ此場合御答ヲスルコトハ出來マセヌガ、總テノ點ニ付テ政府ハ十分ナル官紀ノ振肅ヲ行ハナケレバナラス、全體ニ向ッテ綱紀

ノ肅正ヲ要望スル以上ハ、先ヅ以テ政府ガ自カラ政府部内ニ於ケル所ノ官紀ノ振肅ト云フ事柄カラ始メナケレバナラヌ、其點ニ付キマシテハ内閣成立早々既ニ内閣總理大臣ヨリ部内一般ニ向ッテ嚴重ナル訓令ガ出テ居ル譯デアリマス、固ヨリ單純ナル一片ノ訓令ノ出シバナシデハ其效果ヲ十分ニ舉ゲルコトハ出來マセヌカラ、是ガ厲行ニ向ッテハ十分ニ力ヲ盡ス譯デアリマスガ、殊ニ大正十四年度ノ豫算ノ編成ノ當時ニ於テ行フベキ所ノ行政財政ノ整理緊縮ノ場合ニ於テハ、總テノ政府部内ニ於ケル所ノ弊害ト認ムベキモノ或ハ歳出ノ濫費ニ涉ルト認ムベキモノハ、悉クソレヲ調査イタシマシテ、出來得ル限リソレヲ矯正スルニ努メタイト云フ考ヲ有ッテ居リマス、會計検査院ノ威力ヲ發揮シテ十分ナル所ノ權限ヲ行ハシメナケレバナラヌト云フ御意見ニ對シテハ、毛頭異論ヲ持ッテ居リマセヌ、御承知ノ通り今日ノ所ニ於テハ會計検査院ノ検査ノ性質ハ全ク事後ノ検査ニナツテ居リマス、事後ノ検査ニ止マツテ居ルト云フ狀況デアリマス、事後ノ検査ハ固ヨリ必要ナコトデアリマスルガ、検査院ノ威力ヲ十分ニ發揮イタシ、政府部内ノ振肅ヲ圖ル爲ニハ事後ノ検査ノミテハ十二分ニ其目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、其事後ノ検査ノ上ニ更ニ事前ノ検査ヲ行フト云フコトガ必要デハナイカト云フ議論ガ、今日政府部内ニ於テモ起ッテ居ルノデアリマス、此検査院ノ事前ノ検査ノ方法竝ニ其組織等ニ付キマシテハ、唯今諸外國等ノ例ヲモ調ベマシテ考究中デアリマス、考究ノ結果トシテ、事前ノ検査ガ果シテ行ハルベキモノデアルヤ否ヤ、若シ行ハルトスルナラバ、其方法ハ如何ト云フコトニ付テ相當ナル調査考究ヲ行ッテ居ル所デアリマス、其結果ハ今日カラ豫斷ヲ申スコトハ出來マセヌケレドモ、現在事前ノ検査ノ事柄ハ政府部内竝ニ検査院ノ内部ニ於キマシテモ問題ニナテ、雙方ニ於テ考究中デアルト云フコトヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス

○藤本閑作君 私ノ質問ニマダ殘リガアルカノ如クニ考ヘマス、是ハ將來國ガ施設經營スベキ各種ノ事業ニ對シ大震災ト都市集中ノ弊ニ鑑ミテ適當ニ東京横濱以外ノ各地ニ施設スルノ方針ナリヤ否ヤ、此點ニ對シテハマダ御答辯ガナイカノヤウニ思ヒマス

〔國務大臣濱口雄幸君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 將來、政府ガ全國ニ亙ル所ノ諸般ノ施設ヲ行フ上ニ於テ、單リ帝都ノ復興竝ニ復舊事業ノ爲ニ金ヲ使フノミナラズ、其他全國ニ亙ル所ノ事業ニ向ッテモ相當ノ考慮ヲスルト云フ考ハナイカト云フ御質問

デアッタヤウデアリマス、之ニ付キマシテハ内務大臣カラ既ニ御答濟ミデアルト理解ヲ致シテ居リマシタガ、尙ホ御質問ニ依リマシテ、私カラモ申上ゲマス、政府ハ唯今御尋ノ如キ單ニ帝都ノ復興復舊ノミニ專ラニシテ其他全國ニ亙ル、殊ニ地方ノ農村振興等ノ如キ焦眉ノ問題ニ付テ、怠ッテ居ルト云フ考ヲ有ッテハ居リマセヌ、將來ニ向ッテモ出來得ルダケ諸般ノ問題ニ對シテ相當ノ施設ヲ講ジタイト云フコトヲ考ヘテ居リマス、何ヲ申シマシテモ、今日ノ我が財政ノ狀況ハ先刻ノ豫算演說ノ時ニモ申上ゲマシタ通り極メテ困難ナル立場ニナツテ居リマス、其原因ニ付キマシテハ改メテ申スマデモアリマセヌガ、今日ノ我國ノ財政ハ甚ダ苦シイ狀態ニ立ッテ居リマス、其苦シイ所ノ今日ノ難局ヲ先ヅ以テ立直シテ仕舞ッテ、行政財政ノ大整理緊縮ヲ行フ、其整理緊縮ヲ行フコトニ依ッテ、初メテ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトガ出來ル、財政ノ基礎ガ鞏固ニナツタ上ニ、ソコデ初メテ諸般ノ新シイ所ノ事業ヲ財政ノ餘力アルニ從ッテ經營スルコトガ出來ル、今日ノ所ニ於キマシテハ先ヅ以テ整理緊縮ヲ先決問題トスル、其ノ先決問題ガマダ目鼻ガ附キマセヌ中ニハ、新ナル事業ニ向ッテ手ヲ延バヌダケノ餘力ガ今日ノ財政ニ於テハ無イノデアリマス、ソレ故ニ農村ノ振興ヲ初メ、諸般ノ施設經營ヲヤリタイト云フ十分ナル希望ハ持ッテ居リマスケレドモ、其希望ヲ現實ニスルガ爲ニハ、先ヅ以テ大正十四年度ノ財政ノ計畫ヲ立テテ當ッテ、前申シマシタ通り行政財政ノ整理緊縮ヲ行ヒマシテ、其緊縮ノ結果トシテ得タル所ノ餘力ヲ如何ニ用ヒルカト云フ時ノ問題デアリマシテ、其方法ヲ審議スル時ニハ、諸般ノ施設ノ講ズベキモノハ之ヲ講ズル、其講ズル程度、其範圍其方法ニ付キマシテハ財政整理緊縮ニ依ッテ、ドレダケノ餘力ガ出ルカト云フコトガ先決問題デアリマス、其金額ガ大體ノ見當ノ付イテ居リマセヌ今日ニ於テハ、具體的ニ斯ウ云フコトヲドレダケノ程度デ行ヒマスルト云フコトヲ豫メ申上ゲルコトノ出來ナイコトハ、洵ニ遺憾デアリマスガ、政府ハ出來得ル限リ政治ヲ行フ上ニ於テ、單リ帝都ノ復興ノミナラズ、廣ク全國ニ亙ッテ國利民福ヲ増進スルニ必要ナル所ノ施設ヲ講ジタイト云フ考ヲ持ッテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○議長(公爵德川家達君) 是デ通告ハ済ミマシタ

○伯爵林博太郎君 唯今日程ニ上ッテ居リマスル大正十三年度歳入歳出總豫算追加案ノ全部ノ審査期限ハ豫メ之ヲ定メズシテ豫算委員會ノ審査終了次第ニ本議場ニ報告ヲ致スコトニ致シタイト考ヘマス、茲ニ動議ヲ提出イタシマス

○子爵西大路吉光君 賛成

○子爵野村益三君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 林伯爵ノ勸議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無ケレバ日程第九、第十ハ、一括シテ説明ヲ煩シ議題ト致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第九、震災被害地ノ地租免除等ニ關スル法律案、第十、震災ニ因リ地租ヲ免除セラルル者ノ法令上ノ納稅資格要件ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

震災被害地ノ地租免除等ニ關スル法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷義三

第一條 大正十二年九月一日ノ震災(之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム)ニ因リ著シク利用ヲ妨ダラレタル土地ニシテ地租條例第二十條ノ規定ノ適用ナキモノニ付テハ其ノ實況ニ應シ命令ノ定ムル所ニ依リ大正十二年ヨリ五年以内其ノ地租ヲ免除スルコトヲ得但シ大正十二年宅地租第一期分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條 政府ハ大正十二年勸令第四百十號第二條ノ震災地ニ於テ大正十三年九月一日以後ニ納付スヘキ左ノ租稅ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

一 地租

二 第一種所得稅

三 相續稅

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

震災ニ因リ地租ヲ免除セラルル者ノ法令上ノ納稅資格要件ニ關スル法律

案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷義三

大正十二年九月ノ震災ニ因リ免除セラルル地租ハ法令上ノ納稅資格要件ニ關シテハ免除セラレサルモノト看做ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣濱口雄幸君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 私ハ日程第九、震災被害地ノ地租免除ニ關スル法律案提案ノ説明ヲ致サウト思ヒマス、御承知ノ如ク震災被害者ニ對スル所得稅及營業稅ニ付キマシテハ既ニ大正十二年勸令第四百十號及大正十三年勸令第二十一號ノ緊急勸令ガ發布セラレマシテ、ソレト救濟ノ方法ガ講ゼラレタノデアリマス、之ト同一ノ趣行ヲ以テ震災ノタメ著シキ利用ヲ妨ダラレタル土地ニ付キマシテモ特別ノ救濟ヲナスノ必要ヲ認メマシテ、其實況ニ應ジテ一定ノ年間地租ヲ免除スルコトニ致シ、又震災地ニ於テ本年八月三十一日マデニ納付スベキ所ノ數種ノ租稅ニ付キマシテハ右ノ緊急勸令ニ依ッテ、徵收ヲ猶豫セラレテ居ルノデアリマスルガ、ソレトノ權衡上、九月一日以後ノ納付スベキ租稅ニ付テモ徵收ヲ猶豫スルノ必要ヲ認メマシテ本案ヲ提出ヲ致シタ次第デアリマス、尙ホ詳細ハ委員會ニ於キマシテ説明イタシタイト思ヒマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

〔國務大臣若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(若槻禮次郎君) 其次ニ日程ニ上ッテ居リマス法律案ハ、唯今大藏大臣ノ説明ヲセラレマシタ法律ガ通過イタシマス云フト、地租ガ免除セラレコトニ相成リマス、併シ地租ヲ免除セラレマシテモ從前地租ヲ納メテ居ル者ニハ矢張り市町村會ノ議員ナリ、縣會議員ナリ、其他議員選舉ニ租稅ヲ納メルコトヲ必要トシテ居リマス條件ノ所ニハ差障リノナイヤウニ致シタイト云フノガ、此法案ノ趣旨デアアルノデアリマスカラ、前案ニ伴ツテ、ドウゾ御審議ノ上ニ御協賛アラムコトヲ切望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 兩案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔瀬古書記官朗讀〕

震災被害地ノ地租免除等ニ關スル法律案外一件特別委員

伯爵柳澤 保惠君 子爵青木 信光君 淺田 徳則君
波邊 廉吉君 男爵黒田 長和君 男爵矢吹 省三君
西久保 弘道君 西野 元君 田中 清文君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十一、砂防法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

砂防法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷 義三

砂防法中左ノ通改正ス

第六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルトキ、其ノ利害關係一府縣ニ止マラサルトキ、其ノ工事至難ナルトキ又ハ其ノ工費至大ナルトキハ主務大臣ハ之ヲ管理シ、其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(若槻禮次郎君) 昨年九月ノ震災ニ依リマシテ、相模川、多摩川、酒匂川、花水川及早川流域ノ山地ガ大崩壊ヲ致シマシタガ爲ニ、速ニ之ガ復舊ノ砂防工事ヲ施行スル必要ガアリマス所、技術上至難ノ工事デアリマスルシ、又其工費モ巨額ヲ要スルノデアリマスカラ、關係府縣ヲシテ之ヲ施行セシメムト致シマシテモ、到底其能クスル所デナイノデアリマスノデ、國ニ於テ之ヲ直轄施行スルノガ適當デアルト認メテ居リマス、然ルニ現行砂防法ノ第六條ノ規定ニ依リマスト云フト、他府縣ノ利益ヲ保全スルタメ必要ナルカ、

又ハ其利害關係一府縣ニ止マラザル場合ニ限ツテ、主務大臣ニ於テ其工事ヲ直轄施行スルコトガ出來ルト云フコトニナツテ居リマシテ、今回ノ工事中デ神奈川縣下ノ花水川及早川流域ノ場合ニ適用スルコトガ出來ヌコトニナツテ居リマス、ソレ故同條第一項ヲ改正シマシテ、其工事ノ至難ナルトキ又ハ工費至大ナルトキニモ亦主務大臣ニ於テ其工事ヲ施行スルコトガ出來ルヤウニ範圍ヲ擴メマス必要ガアルノデアリマス、是ガタメ本案ヲ提出イタシタ次第デアリマスカラ、ドウゾ成ルベク速ニ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ切望イタサセマス

〔瀬古書記官朗讀〕

砂防法中改正法律案特別委員

伯爵松 浦 厚君 子爵西大寺 吉光君 子爵竹屋 春光君
平井 晴二郎君 荒川 義太郎君 男爵南岩倉 具威君
男爵辻 太郎君 中村 純九郎君 小林 八右衛門君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十二、震災善後公債法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

震災善後公債法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷 義三

震災善後公債法中左ノ通改正ス

第一條中「震災ニ伴フ復興事業ニ關スル經費支辨ノ爲」ヲ「震災ニ伴フ復興事業其ノ他震災善後ノ爲ニ要スル經費支辨ノ爲」ニ、「四億六千八百五十萬圓」ヲ「十億七千三百萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣濱口雄幸君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 現行ノ震災善後公債法ノ規定ニ依リマスレバ、其公債ノ發行限度ハ四億六千八百五十萬圓デアリマシテ、右ノ金額ハ帝都復興

費豫算額四億六千八百四十三萬八千八百四十九圓ヲ切上ゲタモノデアリマス
ルガ、右ノ外、帝都復興費ノ追加一億五千萬圓及震災ニ因ル各種ノ復興事業
ノ爲ニスル費額ノ中五億二千三百三十萬六千八百四十四圓、是モ亦其財源ヲ
公債ニ求ムルコトニ致シマシタノデ、總額十億九千六百七十四萬五千六百九
十三圓トナリマスルガ、右ノ中二千四百十八萬五千五百圓ハ既ニ財政上ノ緊急
處分トシテ大正十三年勅令第四十六號ニ依リ起債ヲ濟マセマシタノデ、之
ヲ除キマシタル殘額ニ對シ端數ヲ切上ゲマシテ、十萬七千三百萬圓トシテ震
災善後公債法ニ規定スル公債ノ發行ヲ企圖スル必要ヲ認メタノデアリマス、
仍テ茲ニ同法中改正法律案ヲ提出イタシマシタ次第デアリマス、何卒御審議
ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサ
セマス

〔瀨古書記官朗讀〕

震災善後公債法中改正法律案特別委員

子爵本多 忠 鋒君 子爵八條 隆 正君 中村 是 公君
男爵郷 誠之助君 男爵小畑 大太郎君 山之内 一 次君
永田 秀次郎君 大谷 嘉兵衛君 横 山 章君

○議長(公爵德川家達君) 日程第十三、小作調停法案、政府提出、衆議院送
付、第一讀會、高橋農商務大臣

小作調停法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

衆議院議長 粕 谷 義 三

貴族院議長公爵德川家達殿

小作調停法

條一條 小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルトキハ當事者ハ爭議ノ
目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ
得
當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ
調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條 當事者不當ノ目的ヲ以テ濫ニ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキ
ハ裁判所ハ其ノ申立ヲ却下スルコトヲ得
第三條 調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長又ハ郡長ヲ
經テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依ル調停ノ申立アリタルトキハ市町村長又ハ郡長ハ
遲滞ナク申立ニ關スル書類ヲ裁判決ニ送付シ且町村長ニ在リテハ郡長
ニ申立アリタル旨ヲ通知ヲ爲スコトヲ得

爭議ノ目的タル土地カ數郡町村ニ互ル場合ニ於テハ調停ノ申立ヲ受ケ
タル市町村長又ハ郡長ハ遲滞ナク關係市町村長及郡長ニ前項ノ通知ヲ爲
スコトヲ要ス

第五條 裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ爭議ノ目
的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス但シ第八條
第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

第七條 調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村長、郡長、又ハ裁判所書記其ノ
調書ヲ作ルコトヲ要ス

第八條 爭議ノ目的タル土地カ數箇ノ裁判所ノ管轄區域内ニ存スル場合ニ
於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ
決定ヲ以テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ移送スルコト
ヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第九條 第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ遲滞ナク爭議ノ目的
タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ其ノ旨ヲ通知ヲ爲スコトヲ要ス
第十條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ繫屬スルトキハ調停ノ終
了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第十一條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ調停委員會ヲ開クコトヲ要
ス但シ爭議ノ實情ニ鑑ミ之ヲ開カスシテ調停ヲ爲スコトヲ得
當事者ノ申立アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス裁判所ハ調停委員會ヲ
開クコトヲ要ス

第十一條 裁判所事情ニ依リ適當ナル者アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ

拘ラス之ヲシテ勸解ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 當事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシムル爲總代ヲ選任スルコトヲ得

裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ得

總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

第十三條 總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス

總代ノ解任ハ之ヲ裁判所ニ届出ツルニ非サレバ其ノ效ナシ

第十四條 裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 當事者、總代及利害關係人ハ自身出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁判所ノ許可ヲ受ケ代理人ヲシテ出頭セシメ又ハ輔佐人ヲ同伴スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十七條 爭議ノ目的タル土地ノ所在地又ハ當事者ノ住所地ノ市町村長又ハ郡長ハ裁判所ニ對シ事件ノ經過ニ付陳述ヲ爲スコトヲ得

第十八條 裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前條ノ市町村長又ハ郡長又ハ郡長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ意見ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 小作官ハ期日ニ出席シテ又ハ期日外ニ於テ裁判所ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ事實ノ調査ヲ小作官ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 裁判所ニ於ケル調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ相當ト認ムル者ノ傍聴ヲ許スコトヲ得

第二十二條 裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ一方又ハ双方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條 裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ

爲スコトヲ得

口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十四條 裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 裁判所ノ調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關スル定ヲ爲ササルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費用ヲ自ラ負擔ス

第二十七條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十八條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員二人以上ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方裁判所長之ヲ指定ス

調停委員ハ調停ニ適當ナル者ニ就キ地方裁判所長ノ選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ地方裁判所長ノ選任シタル者ニ就キ當事者双方カ各別ニ選

定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ指定スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十條 調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑ミ適當ト認ムル場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主任之ヲ指揮ス

第三十二條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決スル所ニ依ル

第三十三條 調停委員會ノ評議ハ之ヲ秘密トス

第三十四條 第十一條乃至第二十六條ノ規定ハ調停委員會ノ調停手續ニ之ヲ準用ス

第三十五條 調停委員會ハ當事者、總代又ハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ且必

要ト認ムルトキハ證據調ヲ爲スコトヲ得

調停委員會ハ調停主任ヲシテ證據調ヲ爲サシメ又ハ之ヲ區裁判所ニ囑託スルコトヲ得

證據調ニ付テハ民事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費、日當及止宿料ニ付テハ民事訴訟費用法ヲ

準用ス

第三十六條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員會ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調停條項ヲ定メタル場合ニ於テハ調停委員會ハ其ノ調書ノ正本ヲ當事者、總代アルトキハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代カ其ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトヲ得期間ノ伸長ハ之ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ調停條項ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會ハ其ノ旨ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコトヲ要ス

第三十七條 調停委員會第二條ニ規定スル事由アリト認ムルトキハ調停ヲ爲ササルコトヲ得

第三十八條 調停成リタルトキ又ハ第三十六條第三項ノ規定ニ依リ調停ニ同意シタルモノト看做サレタルトキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ當事者又ハ總代ハ民事訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 裁判所ハ調停力著シク於正ナラスト認ムル場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス

第四十條 調停委員會ヲ開キタル場合ニ於テハ調停ハ認可決定アリタルトキニ限り裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有ス

第四十一條 裁判所調停認可ノ決定ヲ總代ニ告知シタル場合ニ於テハ調停條項ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ揭示スルコトヲ要ス

第四十二條 調停委員會必要アリト認ムルトキハ調停ノ經過ヲ公表スルコトヲ得

第四十三條 調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ結果ヲ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス

ル土地ノ所在地ノ市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十四條 當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記錄ノ閱覽若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ムルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繫屬中記錄ノ閱覽又ハ謄寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第四十五條 調停委員及第十一條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ勸解ヲ爲シタル者ニハ旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第四十六條 第四十四條ノ手數料並前條ノ旅費、日當及止宿料ノ額ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 本法中郡トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳管轄區域、郡長トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司トス

本法中町村、町村長又ハ町村役場トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村、町村長又ハ町村役場ニ準スルモノトス

第四十八條 第三十四條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五拾圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ顛末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勸令ヲ以テ之ヲ定ム本法ハ勸令ヲ以テ指定スル地區ニ之ヲ施行フ

〔國務大臣高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(高橋是清君) 小作調停法案ニ付キマシテ説明ヲ致サウト存ジマス、近年殊ニ大正八九年頃カラシテ小作爭議ハ頻々トシテ各地ニ起リマシテ往々ニシテ此當事者ノ間ニ思想感情ノ背馳衝突ヲ惹起ス様ナ譯デ、是ガタメ一般不安ノ念ニ驅ラレテ居ッタノデ、前途頗ル憂慮スベキモノデアリマシテ、政府ハ之ニ對スル政策ヲ講ジマシテ、曩ニ小作制度調査會ノ答申イタシマシタル所ノ成案ニ基キマシテ、尙ホ攻究ノ上小作調停法案ヲ第四十六議會ニ提

出イタシタノデアリマスル、是ハ遂ニ衆議院ニ於テ審査未了ニ終リマシタ、然ルニ其後ニ於ケル小作爭議ノ趨勢ヲ見マスルニ、其數ニ於テ甚シク増加イタスノミナラズ其質ニ於テモ益々峻烈ヲ加ヘルヤウナ……深刻ヲ加ヘル様ナ有様デアリマス、今日デハ之ヲ放任シテ置クノ不可ナルヲ見ル狀勢ニアルノデアル、故ニ政府ハ更ニ十分ノ調査ヲ遂ゲマシタル上、先ニ提出イタシマシタル法案ニ若干ノ修正ヲ施シマシテ而シテ茲ニ提出ノ運ビニナリマシタル次第デアリマス、本案ノ目的ハ公平ナル立場ニ在リマス所ノ調停機關ヲ設ケマシテ、之ヲシテ當事者ノ協調和解ヲ促進イタシテ、圓滿且ツ迅速ニ其紛議ヲ解決サセタイト云フ目的ニアルノデ即チ當事者ノ申立ニ依リマシテ判事ト民間ニ在ル所ノ適當ナル委員ヲ加ヘマシテ、調停委員會ヲ組織イタシマシテ、而シテ必要ニ應ジマシテ隨所ニ出張セシメ調停ノ任ニ當ラセ、當事者双方膝ヲ交ヘテ互譲和解セシムルコトニ努力斡旋セシムルノデアリマシテ、而シテ其調停ノ結果ニ對シマシテハ裁判所ノ認可決定ヲ經マスレバ、之ヲ以テ裁判所ノ和解ト同一ノ效力ヲ與ヘルノデアリマシテ、在來ノ勸解ト併セ行ハレテ各其適當ナル調停ノ實ヲ舉グルコトニ便利ヲ得セシムルコトヲ期スルノデアリマス、故ニ或ハ本法ニ依リマシテ調停ノ申立ガアリマシタル爭議ニ付テハ、先ヅ從前ノ勸解即チ事實上ノ調停ニ付シマシテ、之ヲ扱フノ規定ヲ設ケマシテ、或ハ郡市町村等ト密接ノ關係ヲ矢張り維持シテ行キ又主要地方ニ小作官ト云フ行政官ヲ特設イタシマシテ常ニ其地方ノ事情ニ通ゼシメ、以テ調停上ニ協力ヲ爲サシメ、其農村及ビ小作爭議特有ノ事情ニ適應スル規定ヲ設ケタノデアリマスデ、本法ノ實施ヲ見ルニ至リマシタナラバ、爭議ノ紛糾收拾スベカラザル程度ニ至ル前ニ速ニ適當ナル解決ヲ圖ルコトヲ得ルコトト信ズルノデアリマス、從テ此法律ガ施行セラレタ上ハ、相當ノ有力ナル效果ヲ舉ゲルモノト信ズルノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ通告ニ依リマシテ、阪本鈺之助君ノ質疑ヲ許シマス

○阪本鈺之助君 質疑ノ通告ハ私一人ダケデゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 唯今ノ所ハ他ニゴザイマセスガ

○阪本鈺之助君 ソレデハ此ノ案ニ付キマシテ十分御質疑シタイコトゴザイマスノデアリマスガ、私ガ質疑ヲシマス爲ニ午前限リノ散會ヲ妨グルコト

ニナリハセスカト思ヒマスカラ甚ダ遺憾デアリマスガ、之ヲ中止イタシマシテ特別委員會カ何カデ申上ゲル機會モアラウト思ヒマスカラ其際質疑スルト云フコトニ致シマシテ、此場合ノ質疑ヲ見合セルト云フコトニ致シマス

○子爵西大路吉光君 唯今議題ト相成ッテ居リマスル、小作調停法案ハ極メテ重要ナル案件デアリマスルガ故ニ、本案ノ特別委員ノ數ヲ十五名トセラレムコトノ動議ヲ提出イタシマス

○大山綱昌君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 西大路子爵ノ本案ノ特別委員ノ數ヲ十五名トセラレタイト云フ動議ニ御異存ゴザイマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔瀬古書記官朗讀〕

小作調停法案特別委員

子爵伊東 祐弘君	大久保利 武君	道家 齊君
富谷 銈太郎君	玉利 喜造君	和田 彦次郎君
石塚 英藏君	上山 滿之進君	鈴木 喜三郎君
男爵松岡 均平君	男爵安川 敬一郎君	松本 丞治君
志村 源太郎君	伊澤 多喜男君	山田 敏君

○議長(公爵徳川家達君) 日程第十四、大正十三年勅令第四十六號承諾ヲ求ムル件、衆議院送付、會議

大正十三年勅令第四十六號

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長 粕谷 義三

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第七十條第一項ニ依リ震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ

公布セシム

御名 御璽
攝政名

大正十三年二月二十九日

内閣總理大臣	子爵	清浦奎吾
內務大臣		水野鍊太郎
農商務大臣	子爵	前田利定
文部大臣		江木千之
海軍大臣		村上格一
外務大臣	男爵	松井慶四郎
司法大臣		鈴木喜三郎
大藏大臣		勝田主計
陸軍大臣		宇垣一成
鐵道大臣		小松謙次郎
逓信大臣	男爵	藤村義朗

勅令第四十六號

震災善後ニ關シ必要ナル經費ノ支辨ノ爲政府ハ二千四百二十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣濱口雄幸君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 大正十三年勅令第四十六號震災善後ニ關スル經費支辨ノ爲ニ公債發行ニ關スル件ニ付キマシテ、其承諾ヲ求ムルノ理由ヲ説明イタサウト思ヒマス、過般ノ震災ニ基ク諸般ノ復舊事業ニ要スル經費ノ中、東京、神奈川、埼玉、千葉、静岡、山梨ノ一府五縣竝ニ是等ノ府縣内ノ市町村ノ應急施設費及歳入缺陷ヲ補填スル爲ノ貸付金二千萬圓、右一府五縣及東京横濱兩市ガ大藏省ノ預金部カラ貸付ヲ受ケマシタ所ノ借入金ノ利子補給三十二萬五千一百一圓、東京横濱兩市ノ執行スル復興事業、中、街路修築及土地區劃整理ニ關スル貸付金百二萬三千圓、之ニ對スル補助費百三十三萬七千

圓、及私立學校ノ復舊ノ爲ニスル貸付金百五十萬圓、合計二千四百十八萬五千一百一圓ハ、何レモ大正十二年度ノ經費デアリマシテ、而モ之ガ財源ヲ公債ニ求メマシタノデ、大正十二年度内ニ是非トモ起債ノ必要ガアリマシタ、然ルニ時恰モ衆議院解散後デアリマシテ、遺憾ナガラ帝國議會ノ協賛ヲ得ルノ途ガアリマセヌノデ、已ムコトヲ得ズ帝國憲法第七十條ニ依リマシテ、財政上ノ緊急處分トシテ、大正十三年勅令第四十六號ヲ公布イタシマシタノデアリマス、而シテ之ガ實行トシテハ預金部引受ノ方法ニ依リ五分利國庫債券額面二千四百十八萬一千五百圓ヲ發行イタシマシタ、右ハ實ニ緊急已ムコトヲ得ズ、政府ノ行ヒマシタ處分デアリマスノデ何卒御審議ノ上承諾ヲ與ヘラレムコトヲ希望スル次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ノ特別委員ハ日程第十二ノ震災善後公債法中改正法律案ノ特別委員ニ付託イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 日程第十五、大正十三年勅令第二十一號承諾ヲ求ムル件、衆議院送付、會議

大正十三年勅令第二十一號

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十三年七月九日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 粕谷義三

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ震災被害者ノ營業稅課稅標準算定ノ特例等ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽
攝政名

大正十三年二月二十二日

内閣總理大臣	子爵	清浦奎吾
內務大臣		水野鍊太郎
農商務大臣	子爵	前田利定

文部大臣	江木千之
海軍大臣	村上格一
外務大臣	男爵 松井慶四郎
司法大臣	鈴木喜三郎
大藏大臣	勝田主計
陸軍大臣	宇垣一成
鐵道大臣	小松謙次郎
逓信大臣	男爵 藤村義朗

勅令第二十一號

第一條 營業税ノ課税標準ヲ前年ノ實蹟ニ依リ計算スヘキ場合ニ於テ大正十二年九月一日ノ震災(之ニ伴フ火災又ハ海嘯ヲ含ム)ニ因リ營業ノ狀況激變シ課税標準中著シク減損スヘシト認メラルモノアルトキハ大正十三年分營業税ニ限リ豫算ヲ以テ其ノ課税標準ヲ算定ス

前項ニ該當スル營業者ハ速ニ當該課税標準ノ豫算ヲ政府ニ申告スヘシ

第二條 政府ハ大正十二年勅令第四百十號第二號ノ震災地ニ於テ大正十三年四月一日ヨリ同年八月三十一日迄ニ納付スヘキ左ノ租税ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

一 地租

二 第一種所得税

三 相續税

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣濱口雄幸君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 此勅令ノ内容ハ、法文ニモ明カデアリマスル如ク、第一ハ營業税法ニ依リマスレバ、營業税ノ課税標準ハ前一年ノ實蹟ニ依テ算定スルノガ原則ニナツテ居リマスガ、震災ニ因テ營業ノ狀況ガ激變イタシマシテ、本年ノ賣上金額、資本金額ト云フヤウナモノガ著シク減ズルノデアラウト認メラルモノニ付テハ、前年ノ實蹟如何ニ拘ラズ、本年ノ豫算ヲ以テ適當ニ算定スルコトヲ得ト云フ特例ヲ設ケタノデアリマス、第二ハ租税ノ徵收猶豫ノコトデアリマシテ、曩ニ第四十七議會ニ於テ承諾ヲ得マシタ緊急勅令ニ於テハ、大正十二年度分ノ租税ノ徵收猶豫ヲ規定シタノデアリマスガ、

ソレトノ權衡上、大正十三年度分ノ租税ニ付テモ徵收ヲ猶豫スルノ必要ガアリマスノデ、大正十三年度ニ納付スベキ所ノ租税ノ内、納付期限ノ關係上、今期議會ヲ待ツノ餘裕ナシト認メマシタモノニ付テ徵收ヲ猶豫シ得ルノ規定ヲ設ケタノデアリマス、何卒御審議ノ上、御承諾アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ特別委員ハ震災被害地ノ地租免除等ニ關スル法律案外一件ノ特別委員ニ付託イタシマス、次ノ議事日程ハ決定次第本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニテ散會イタシマス

午前十一時五十六分散會